

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1〜8)に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。)

(配点 50)

始<sup>メ</sup>余<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>丙<sup>子</sup><sup>(注1)</sup>秋<sup>ヲ</sup>寓<sup>コ</sup>居<sup>キ</sup>宛<sup>丘</sup><sup>(注2)</sup>南<sup>門</sup>靈<sup>通</sup><sup>(注3)</sup>禪<sup>刹</sup>之<sup>ニ</sup>西<sup>堂</sup>是<sup>レ</sup>歲<sup>ノ</sup>季<sup>ノ</sup>冬<sup>ノ</sup>手<sup>ニ</sup>植<sup>ウ</sup>兩<sup>海</sup><sup>(注4)</sup>棠<sup>于</sup>堂<sup>下</sup>至<sup>リ</sup>丁<sup>丑</sup><sup>(注5)</sup>之<sup>ニ</sup>春<sup>時</sup><sup>(注6)</sup>沢<sup>屢</sup>至<sup>リ</sup>棠<sup>茂</sup><sup>(注7)</sup>悦<sup>ス</sup>

也。仲<sup>春</sup>且<sup>ニ</sup>華<sup>矣</sup><sup>(注8)</sup>余<sup>約</sup>常<sup>所</sup>与<sup>ニ</sup>飲<sup>者</sup>且<sup>ツ</sup>致<sup>ニ</sup>美<sup>酒</sup>将<sup>ニ</sup>一<sup>コ</sup>醉<sup>于</sup>樹<sup>間</sup>是<sup>レ</sup>月<sup>ノ</sup>六<sup>日</sup>予<sup>被</sup>謫<sup>書</sup><sup>(注9)</sup>治<sup>行</sup>之<sup>ニ</sup>黄<sup>州</sup><sup>(注10)</sup>俗<sup>事</sup>紛<sup>然</sup>余<sup>亦</sup>遷<sup>居</sup>

因<sup>不</sup>復<sup>省</sup>花<sup>到</sup>黄<sup>且</sup>周<sup>歲</sup>矣<sup>寺</sup>僧<sup>書</sup>来<sup>言</sup>花<sup>自</sup>如<sup>也</sup>余<sup>因</sup>

思<sup>茲</sup>棠<sup>之</sup>所<sup>植</sup>去<sup>余</sup>寢<sup>無</sup>十<sup>步</sup>欲<sup>与</sup>隣<sup>里</sup>親<sup>戚</sup>一<sup>飲</sup>而<sup>樂</sup>

之<sup>宜</sup>可<sup>必</sup>得<sup>無</sup>難<sup>也</sup>然<sup>垂</sup>至<sup>而</sup>失<sup>之</sup>事<sup>之</sup>不<sup>可</sup>知<sup>如</sup>此<sup>今</sup>

去<sup>棠</sup>且<sup>千</sup>里<sup>又</sup>身<sup>在</sup>罪<sup>籍</sup>其<sup>行</sup>止<sup>未</sup>能<sup>自</sup>期<sup>其</sup>于<sup>棠</sup>未<sup>遽</sup>

得<sub>レ</sub>見<sub>ル</sub>也。然<sub>レドモ</sub>均<sub>シク</sub>于<sub>レ</sub>不<sub>ルニ</sub>可<sub>カラ</sub>知<sub>ル</sub>、則<sub>チ</sub>亦<sub>タ</sub>安<sub>ニ</sub>知<sub>四</sub>此<sub>ニ</sub>花<sub>ヲ</sub>不<sub>ニ</sub>忽<sub>ニ</sub>然<sub>ニ</sub>在<sub>ニ</sub>吾<sub>ノ</sub>目<sub>ノ</sub>前<sub>ニ</sub>乎<sub>。</sub>

(張耒『張耒集』による)

(注) 1 丙子——十干十二支による年の呼び方。北宋の紹聖三年(一〇九六)。

2 宛丘——現在の河南省にあった地名。

3 靈通禪刹——靈通は寺の名。禪刹は禪宗の寺院。

4 海棠——バラ科の花樹。春に紅色の花を咲かせる。

5 丁丑——十干十二支による年の呼び方。北宋の紹聖四年(一〇九七)。

6 時沢——時宜を得て降る雨。

7 茂悦——盛んにしげり成長していること。

8 謫書——左遷を命じる文書。

9 治行——旅支度をさす。

10 黄州——現在の湖北省にあった地名。

11 俗事紛然——世の中が騒がしいこと。ここでは、当時の政変で多くの人物が処罰されたことを指す。

12 自如——もとのまま。ここでは、以前と同じように花を咲かせたことをいう。

13 行止——出処進退。

問1 傍線部(1)「手」・(2)「致」と同じ意味の「手」「致」を含む熟語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は

29

30

(1)

29

「手」

⑤ ④ ③ ② ①  
 手 手 手 拳 名  
 法 腕 記 手 手

(2)

30

「致」

⑤ ④ ③ ② ①  
 一 風 極 招 筆  
 致 致 致 致 致

問2 傍線部A「時沢屢至、棠茂悦也」から読み取れる筆者の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一

つ選べ。解答番号は

31。

- ① 恵みの雨を得て海棠が喜んでるように、筆者自身も寺院での心静かな生活に満足を感じている。
- ② 春の雨が海棠を茂らせることに今年の豊作を予感し、人々が幸福に暮らせることを期待している。
- ③ 恵みの雨を得て茂る海棠の成長を喜びつつも、宛丘での変化のない生活に退屈を覚え始めている。
- ④ 春の雨に筆者は閉口しているが、海棠には恵みの雨であると思えば直して花見を楽しみにしている。
- ⑤ 恵みの雨を得て茂る海棠を喜びながらも、雨天の続く毎日に筆者は前途への不安を募らせている。

問3 傍線部B「不<sub>レ</sub>復<sub>レ</sub>省<sub>レ</sub>花」から読み取れる筆者の状況を説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。解答番号は 32。

- ① 筆者は政変に際して黄州に左遷され、ふたたび海棠を人に委<sup>ゆた</sup>ねることになった。
- ② 筆者は政変に際して黄州に左遷され、もう一度海棠を移し替えることができなかった。
- ③ 筆者は政変に際して黄州に左遷され、それきり海棠の花を見ることがなかった。
- ④ 筆者は政変に際して黄州に左遷され、またも海棠の花見の宴を開く約束を果たせなかった。
- ⑤ 筆者は政変に際して黄州に左遷され、二度と海棠の花を咲かせることはできなかった。

問4 傍線部C「寺僧書来」について、このことがあったのはいつか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 筆者が左遷された年の春。
- ② 筆者が左遷された年の歳末。
- ③ 筆者が左遷された翌年の春。
- ④ 筆者が左遷された翌年の歳末。
- ⑤ 筆者が左遷された二年後の春。

問5 傍線部D「欲与隣里親戚一飲而樂之」について、返り点のつけ方と書き下し文との組合せとして最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34。

- ① 欲<sub>下</sub>与<sub>二</sub>隣里親戚<sub>一</sub>一飲<sub>上</sub>而樂<sub>レ</sub>之  
隣里親戚と一飲せんと欲して之を樂しむは
- ② 欲<sub>下</sub>与<sub>二</sub>隣里親戚<sub>一</sub>一飲<sub>レ</sub>而樂<sub>キ</sub>之  
隣里親戚と一飲して之を樂しまんと欲せば
- ③ 欲<sub>レ</sub>与<sub>二</sub>隣里親戚<sub>一</sub>一飲<sub>レ</sub>而樂<sub>レ</sub>之  
隣里親戚の一飲に<sup>あづか</sup>与らんと欲して之を樂しむは
- ④ 欲<sub>レ</sub>与<sub>二</sub>隣里親戚<sub>一</sub>一飲<sub>レ</sub>而樂<sub>レ</sub>之  
隣里親戚に与らんと欲して一飲して之を樂しむは
- ⑤ 欲<sub>下</sub>与<sub>二</sub>隣里親戚<sub>一</sub>一飲<sub>レ</sub>而樂<sub>キ</sub>之  
隣里親戚に与へて一飲して之を樂しませんと欲せば

問6 傍線部E「事之不可知如此」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

- ① この地で知人を見つげられない事のいきさつは、このようである。
- ② 事の善悪を自分勝手に判断してはいけないのは、このようである。
- ③ 自分の事が他人に理解されるはずもないのは、このようである。
- ④ これから先に起こる事を予測できないのは、このようである。
- ⑤ 努力しても事が成就するとは限らないのは、このようである。

問7 傍線部F「安知此花不<sub>レ</sub>忽然在<sub>二</sub>吾目前<sub>一</sub>乎」について、書き下し文と解釈との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

① 「書き下し文」 安くにか此の花の忽然として吾が目前に在らざるを知るあらんか

「解釈」 どこにこの花が思いがけず私の目の前に存在することがないと分かる人がいるのか。

② 「書き下し文」 安くんぞ此に花の忽然として吾が目前に在らざるを知らんか

「解釈」 どうしてここで花が私の目の前から存在しなくなるとぼんやりとでも分かるのか。

③ 「書き下し文」 安くんぞ此の花の忽然として吾が目前に在らざるを知らんや

「解釈」 どうしてこの花が思いがけず私の目の前に存在することがないと分かるだろうか。

④ 「書き下し文」 安くにか此の花の忽然として吾が目前に在らざるを知るあらんや

「解釈」 どこにこの花が私の目の前に存在しないとぼんやりとでも分かる人がいるだろうか。

⑤ 「書き下し文」 安くんぞ此に花の忽然として吾が目前に在らざるを知らんや

「解釈」 どうしてここで花が私の目の前から不意に存在しなくなると分かるだろうか。

問8 この文章全体から読み取れる筆者の心境を説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

37

- ① 不遇な状況にある自分だが、しばらく過ぎただけの寺の僧からの手紙を受け取って、宗教的修行を積んだ人間への敬意を深め、ひいては人間という存在を信頼しようと思っ直している。
- ② 我が身の不遇はともかく、主のいなくなった海棠の行く末を心配しながらも、無心の存在である海棠と対照的に花への執着を捨てられない自分を嫌悪し、将来に対して悲観的になっている。
- ③ 不遇な状況に陥るやいなや人々から交際を絶たれるという体験を通して人を信じられなくなったが、これまでと変わることなく咲いた海棠の花によって心がいやされ、安らぎを感じている。
- ④ 自分の不遇な状況には変化がないのに、海棠の花は以前と同じく華やかに咲いたという手紙を受け取って、現状から早く脱出したいと思いつながら何もできないと、焦燥感に駆られている。
- ⑤ 今は不遇な状況にある自分だが、いつの日か罪を許されて再び海棠の花を愛でるときが来るかもしれないと、悲しみに没入することなく運命を大局的にとらえ、乗り越えようとしている。